



2016年7月4日

報道関係各位

第一三共株式会社  
ユーシービージャパン株式会社

## 抗てんかん剤「ビムパット<sup>®</sup>錠 50mg・100mg」の 国内製造販売承認取得のお知らせ

第一三共株式会社(本社:東京都中央区、以下「第一三共」とユーシービージャパン株式会社(本社:東京都新宿区、以下「ユーシービージャパン」)。また、ユーシービーグループを総称して以下「ユーシービー」)は、抗てんかん剤「ビムパット<sup>®</sup>錠 50mg・100mg」(一般名:ラコサミド)について、「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用療法」を適応として、国内における製造販売承認を取得しましたのでお知らせします。

てんかん患者さんの大部分が長期的な薬物療法を必要としますが<sup>\*1</sup>、既存の抗てんかん薬を使用しても、30%を超える患者さんでてんかん発作を十分にコントロールできていないとの報告があり<sup>\*2</sup>、てんかんは今なお、アンメット・ニーズの高い疾患です。ビムパット<sup>®</sup>は、厚生労働省の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において、日本てんかん学会及び日本小児神経学会から開発要望書が提出され、当該検討会議にて「医療上の必要性の高い薬剤」との評価を得ました<sup>\*3</sup>。2012年4月に厚生労働省からの要請に応じて早期開発に取り組み、2015年6月に製造販売承認を申請しました。なお海外では2008年8月に欧州、続いて同年10月の米国を含めて、世界70か国以上で承認されています。

ビムパット<sup>®</sup>は、既存の抗てんかん薬とは異なる新しい作用機序を有し<sup>\*4,5,6</sup>、電位依存性ナトリウムチャネルの緩徐な不活性化を選択的に促進することにより、神経細胞の過剰な興奮を低下させる薬剤です<sup>\*7</sup>。日本人を含む部分発作を有する成人(16歳以上)てんかん患者を対象に実施した日中共同第3相臨床試験<sup>\*8</sup>及び長期継続投与試験<sup>\*9</sup>において、ビムパット<sup>®</sup>の有用性が示されました。

第一三共とユーシービーは、てんかん患者の部分発作に対する併用療法において、ビムパット<sup>®</sup>による新たな治療選択肢を提供することで、患者さんや医療関係者の皆様に貢献できるものと期待しています。

国内においては、第一三共とユーシービーが2014年11月に締結したビムパット<sup>®</sup>に関する共同商業化契約に基づき、製造はユーシービージャパンが、販売・流通は第一三共が担当し、プロモーション活動は両社共同で実施していきます。

## 製品概要

販売名	ビムパット <sup>®</sup> 錠 50mg・100mg
一般名(JAN)	ラコサミド
効能・効果	他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用療法
用法・用量	通常、成人にはラコサミドとして1日100mgより投与を開始し、その後1週間以上の間隔をあけて増量し、維持用量を1日200mgとするが、いずれも1日2回に分けて経口投与する。なお、症状により1日400mgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として100mg以下ずつ行うこと。
製造販売承認日	2016年7月4日

以上

### てんかんについて

てんかんは、有病率が約1%、世界に約6,500万人がいる疾患で、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢で発症し、国や地域、性別や人種による発症率の違いはありません。日本では約100万人のてんかん患者さんがいると言われ、毎年57,000人が新たにてんかんを発症しています<sup>\*10</sup>。てんかん患者さんの大部分が長期的な薬物療法を必要としますが<sup>\*1</sup>、既存の抗てんかん薬を使用しても、30%を超える患者さんでてんかん発作を十分にコントロールできていないとの報告があり<sup>\*2</sup>、てんかんは今なお、アンメット・ニーズの高い疾患です。

てんかん発作は臨床症状等に基づき、部分発作(二次性全般化発作に移行することもある)、全般発作及び分類不能のてんかん発作という3つの主要なタイプに分類され、このうち部分発作は全症例の約60%を占める最も高頻度に発現する発作です。

### ユーシービーとてんかんについて

ユーシービーはてんかん領域で新規抗てんかん薬の研究開発を20年以上続けてきており、その結果、豊富な経験と実績を持っています。てんかん研究に長期的に取り組む会社として、ユーシービーは、患者さんのアンメット・ニーズに焦点を当て、その日々の生活を改善する解決策をお届けすることを目標にしています。ユーシービーの科学者たちは、てんかんとその治療法についての理解を深め、貢献できることを誇りにしています。我々は、他の研究施設や製薬企業、組織に属する世界的科学者や臨床の先生方と目標を共有、協力して、高度のネットワークを構築しています。ユーシービーは患者さんからインスパイアされ、サイエンスを原動力として、てんかん患者さんをサポートする努力を日々続けています。

### 参考文献

\*1: Perucca E. : Baillière's Clin Neurol. 5(4), 693-722, 1996

\*2: Kwan P. et al : N Engl J Med. 342(5), 314-319, 2000

\*3: 厚生労働省 : 平成24年4月6日医政研発0406第1号 薬食審査発0406第1号 未承認薬・適応外薬の開発の要請について

\*4: Vilin YY. et al : Cell Biochem Biophys. 35(2), 171-190, 2001

\*5: Beyreuther BK. et al : CNS Drug Rev. 13(1), 21-42, 2007

\*6: Rogawski MA. et al : Epilepsy Res. 110, 189-205, 2015

\*7: Errington AC. et al : Mol Pharmacol. 73(1), 157-169, 2008

\*8: 承認時評価資料(日本及び中国における部分発作併用療法のプラセボ対照比較試験)

\*9: 承認時評価資料(日本及び中国における部分発作併用療法の長期継続投与試験)

\*10: 日本てんかん学会:「てんかん専門医ガイドブック」診断と治療社, 2014

### 第一三共グループについて

第一三共グループは、「革新的な医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことを企業理念に掲げております。

世界中で多くの患者さんに服用いただいた高血圧症、脂質異常症、感染症領域の薬剤に続き、血栓症領域でも新薬を上市し、次代のフランチャイズとして育成しております。

さらには研究の重点標的疾患領域を「がん」と定め、次世代領域を「疼痛、中枢神経系疾患、心不全・腎障害、希少疾患」とし、バイオ医薬品を含めた新薬創出に向けて取り組みを強化しております。

また、第一三共グループは、患者さん、医療関係者等の皆さまの多様なニーズに対応するべく、イノベティブ医薬品(新薬)に加え、ジェネリック医薬品、ワクチン、OTC医薬品の事業を展開しております。

詳細については、[www.daiichisankyo.co.jp](http://www.daiichisankyo.co.jp) をご覧ください。

### ユーシービーについて

ユーシービーグループ([www.ucb.com](http://www.ucb.com))は、ベルギーのブリュッセルに本社を置くグローバルバイオフーマで、ニューロロジーや免疫・炎症領域の重篤な疾患と共に生きる患者さんの生活をより良くするため、革新的な医薬品の研究開発や創薬ならびにソリューションの提供に力を注いでいます。世界約 40 か国に拠点を置き、従業員数は 7,500 名以上を擁します。2015 年の売上は 39 億ユーロ(約 5,200 億円)でした。ユーシービーはユーロネクスト・ブリュッセル証券市場に上場しています(シンボル:UCB)。

ユーシービージャパンは 1988 年に設立され、抗てんかん薬「イーケプラ<sup>®</sup>錠」や関節リウマチ治療薬「シムジア<sup>®</sup>」を中心に事業を展開しています。患者さんの価値を創造するバイオフーマのリーダーとして、日本の医療・健康へ更なる貢献をしていきます。

この件に関するお問い合わせは、下記にお願いします。

第一三共株式会社 コーポレートコミュニケーション部

報道関係者の皆様 TEL: 03-6225-1126

株式市場関係者の皆様 TEL: 03-6225-1125

ユーシービージャパン株式会社 広報部

TEL:03-6864-7633